

会 議 記 録				
会 議 の 名 称	決算特別委員会 総務文教分科会			会議場所 第3委員会室
				担当職員 井上
日 時	令和2年9月24日(木曜日)			開 議 午前10時00分
				閉 議 午前10時36分
出席委員	◎山本 ○松山 三上 浅田 木村 木曾 石野			
執行機関出席者				
事務局	井上事務局次長			
傍聴	<input checked="" type="checkbox"/> 可・否	市民 1名	報道関係者 0名	議員 1名(福井)

会 議 の 概 要

10:00

1 開議

2 委員長報告の確認

<山本委員長>

全体会で報告する委員長報告の確認を行う。

— 委員長報告の朗読 —

<木曾委員>

一般会計決算について、「賛成多数をもって可決」となっているが、「認定」の間違いである。

<山本委員長>

修正する。

3 事務事業評価結果の確認

<山本委員長>

次に、事務事業評価結果の確認を行う。

<三上委員>

ガレリアかめおか指定管理のところであるが、「ガレリアかめおかについては、今後、作成される大規模改修計画により」として、「指定管理についても」と続けられればどうか。指定管理を2回出す必要はないのではないか。

<山本委員長>

ガレリアかめおかについては、今後、作成される大規模改修計画により、効果的な改修となるよう努められるとともに、指定管理についても民間の活用も含め検討されたいということによいか。

— 全員了 —

移住・定住促進経費であるが、「目的を観光振興にするなど、施設活用を再検討されたい」としているが、意見としては、「離れ」にのうみを使うのに観光と移住定

住の役割を分けて活用するようという意見があった。市長公室は移住定住、産業観光部は観光と、役割を分けて「離れ」にのうみを活用していくことが、この文章の中に含まれているということによいか。

<三上委員>

所管を産業観光部に移管して観光目的にしつつ、移住定住で来る人たちの拠点施設としての活用を市長公室は考えればよいという意見である。所管がどちらもということにはならないと思う。

<木曾委員>

所管は産業観光部でよいと思うが、移住定住でこの施設を利用したいという観点がある。観光目的だけで使えということではない。「離れ」にのうみに対しては、移住定住で国から補助金をもらっている。それを切り離してしまうと、補助金を返還しなければならないことになる。あえてそのリスクを負う必要はないので、そのような言い方をした。その中に、移住定住目的で活用することも含まれているというように進めてほしい。

<山本委員長>

市長公室は、産業観光部と連携し、役割分担してやっていると答弁している。現状でもやっていると言っていたので、この文章によいか。

<三上委員>

「離れ」にのうみのような家に住みたいと思う人はいないという意見も出ていた。このような施設を移住定住施設として持っている自治体はどこにもないので、比較のしようがないと市長公室は言っていた。実際に移住定住目的で来る人は2%しかいない。もともと無理があった。総務文教常任委員会は、所管を替えるべきだと意見を付した。結局、この書き方でよいのではないか。あの時も、国の補助金が出ていることを承知の上であった。

<木曾委員>

文化振興経費の2番目、「わかりにくい事業となる」で文章が終わっているが、3番目と文章をつなげた方がよいのではないか。

<三上委員>

附帯決議にある、これ以上関連事業や財政支出を増やさないようにとつなげばどうか。1番目と3番目の文章は、1つにした方がよいのではないか。

<山本委員長>

市民の認知度が低いので、市民への説明責任をしっかりと果たされたい。これ以上関連事業を増やすとますます市民にとってわかりにくい事業となるため、規模を縮小し、関連事業や財政支出をしないようにされたいということによいか。

<三上委員>

関連事業や財政支出をしないとすれば、一切しないことになるので、増やさないようにされたいの方がよいのではないか。

<山本委員長>

決算で附帯決議を付けることはあまりない。事務事業評価の意見等として上げていることを、敢えて附帯決議で上げるということは、これまで、予算や決算で附帯決議を上げてきたけれど、行政側が変わらないことから、分科会としての姿勢を示していくためということによいか。

— 全員了 —

<事務局次長>

セーフコミュニティ推進事業経費で、「セーフコミュニティ活動に対する市民の認知

度を高め」としていただいているが、認証取得はしなくてもセーフコミュニティ活動は続けてほしいという意味でよいか。

<三上委員>

セーフコミュニティという名前にこだわらなくてもよいのではないかという意見を言ったが、セーフコミュニティという形できているのでこれでよいと思う。

<山本委員長>

6つの対策委員会でやっていただいていることを、地域の皆さんに知っていただき、一緒にやっていくという意味も入っている。

<木曾委員>

活動と認証取得とは別である。

<三上委員>

認証取得をするから、いくつもの対策委員会を開いてしなければならない。結局、焦点が絞れないので、今年が高齢者の転倒防止1本でやろうとか、来年は子どもの安全でセーフコミュニティとこども未来部とでコラボしようというように、焦点化した方がやりやすいと思う。

<木曾委員>

私が議長の時に再認証を取得したが、広げることが認証につながると言って広げた。結局、広げることによりわかりにくくなってしまった。学校や保育所もセーフスクールをやったが、広げると大変だということで、次は認証取得をしないことになった。広げると目的がわからなくなり、負担も大きくなる。保育所は、通常の保育現場が疲弊しているのに、その上、セーフコミュニティの書類を作らなければならないということで大変であったようだ。規模縮小しているので、よい機会である。

<山本委員長>

他になれば、以上で総務文教分科会を閉議する。

10 : 36